NO.2332　2026/11/09発行　福祉担当理事会

たくさんの寄付をありがとうございました！



おふくわけ 報告



723人より 1512口　756,000円の 寄付をいただきました。

９月に取り組んだ食支援のしくみ「おふくわけ」に、たくさんの組合員の参加があり心より感謝いたします。

初めての取り組みのため、各支部から伝え、全組合員へチラシを配布して行いました。「何かできることがあればと思っていた」「しくみとして参加しやすかった」などの声があり、参加人数に加え、口数も２０口まであり日頃の気持ちと活動が反映された結果に、さすが生活クラブ北海道だと誇らしく思えました。早速、各団体へお届けし、今後も継続した取り組みにしていきたいと考えています。

＜お届け先より＞

ふきのとう・こどもクラブ



「やったー！塩にぎりだ」子どもたちの歓声が上がります。カフェタイムの一番人気はスタッフが握った具の入らない「塩にぎり」です。

子ども第三の居場所「ふきのとう・こどもクラブ」は、2023年に開所しました。目玉の一つがカフェタイム。寄贈品などを利用し、活動日におやつや軽食を提供しています。しかし、スタッフの悩みは食材の確保とメニューです。そんなときに届く「おふくわけ」。先日行った秋の農業体験イベントで手に入れたサツマイモや栗を使って美味しいメニューが提供できそうです。そのことで感謝の気持ちの「おふくわけ」につながることでしょう。

運営リーダー　星野 康

FOOD RIBBON かふぇ ぽんこたん



この度はおふくわけの米をいただきありがとうございます。

当店では地域やお客様からリボン一個に300円の支援をいただき、そのリボンを利用して営業中ならいつでも子どもたちが無料でご飯を食べられるフードリボンという仕組みに取り組んでいます。

毎月40～50個の利用があり、長期休みの時はさらに利用が増え、子どもたち、親御さんにも大変喜ばれています。今回の寄付で「ご飯おかわりしていいよ」とか「大盛りにするね」と気軽に子どもたちに声をかけられます。

共同代表　薄井 仁美

2団体以外に、子ども食堂ネットワークを通じて全道のこども食堂へお届けしました。

＜寄付をした組合員より＞



豊平支部

石井　千恵子さん

私は、たまごの会からの組合員です。

子どもたちに対しての今回の企画は、ありがたく心より嬉しいと思います。

「子ども食堂に来られる子どもたちは幸せで、本当に苦しい子は家から出られない」と聞いたことがあります。今後ともできる限りの支援を行っていきたいと思います。

岩見沢支部

玉手　弥生さん



新米を出したい季節なのに前年産のお米が余っている。しかも新米の値段は安いという現状の中、生産者と余っているはずのお米が行き渡っていない場所をつなぐ素敵な取り組みが「おふくわけ」だとピンときました！生産コストは上がるばかりですが、安心で美味しいお米を作る手を止めずに一人でも多くの方に届くよう願います。

函館市（宅送便組合員）

馬場　玲子さん

自然農法やオーガニックにこだわった食材を使った、お弁当屋を経営しています。生活クラブのこの度の活動「おふくわけ」に賛同し微力ながらも誰かのお役に立てたならと思いご寄付しました。

必要な方に届きますように
お腹いっぱい食べて貰いたいと思います。